

2月19日(月)

彼は私を知っている

聖書朗読 ヘブル4：14～5：10

私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。

ヘブル 4:15

山のように積みあがった書類を想像してください。世界中の人々が自分の一番大きな問題を書き留めて、その山に乗せていったものです。もしその人たちが代わりにどれか一つ持っていくように頼まれたら、皆自分のものを取って、他のものは置き去りにして満足するだろうと、ある作家は言いました。そこには常に自分のより悪いものがあるのです。

苦痛や、悲しみや心の痛みに満ちた人生の中で、最もよく聞かれる質問は「なぜ？」です。キリスト教を信じたからといって問題を免れることはできませんが、しかし私たちには他の人たちが持っていない、希望を持てる理由があるのです。それはこれらの事実です。①私たちの大祭司は天にいて、支配してくださっていること。②しかしそうなる前は、イエス様はこの地上にいて、私たちと同じように試みに会われたこと。③この世で苦痛に会われていた間、神様はイエス様の祈りを聞かれ、それゆえ私たちの祈りも聞かれているということ。④神様はイエス様をご自身の子どもと呼ぶことによって、主が永遠に大祭司であることができるようにされたこと。⑤主イエスが私の永遠の救いの源、私の確信の土台となられたこと。

ですから、私は傷ついたとき、主が癒してくださることを知っています。私が叫ぶとき、主は聞いていてくださるのです。

讃美歌 第二編 88

祈り 私が困窮し、あなたを待ち望んでいるときにあなたの恵みを注いでください。私の朝ごとの力となり、私が苦しむときの救いとなってください。

イエス様を通してお祈りします。アーメン。

ボブ・マイズ

テキサス州 ラボック

今日の日

2018年2月19日～2月25日

翻訳 鈴木 慈久

編集 岩田 欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月20日(火)

恐れてはならない

聖書朗読 ヘブル12:1~3

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」
ヨハネ 14:1

時々、私は世界が怖くなります。あたりを見渡せば憎しみや分裂、暴力や薬物問題が目に入ります。世界の中で育っている子どもたちは時々放蕩して手に負えなくなっているように見えます。あたりを見渡せば、人は簡単に恐れを抱いてしまいます。人は簡単に否定と絶望の負のスパイラルに陥ってしまうのです。不完全なものに目を留めることは私たちの歩みを遅くするだけです。

クリスチャンは人生の競争を走るとき、あたりを見回して、世界の中にあるあらゆる問題に焦点を合わせることはしません。ヘブル人への手紙の著者は私たち、先に進むときにはイエス様を見つめるようにと語ります。私たちがイエス様に焦点を合わせる時、イエス様がすでに世に勝ったことを知ることによって世界への恐れが和らいでいきます。イエス様が光であると知ることによって夜も暗くなくなるのです。

そのことから目をそらすと、私たちの歩みはのろくなります。信仰の創始者であり完成者であるイエスに目を向けましょう。そこに腕を広げてイエスは立っています。

讃美歌 第二編 31

祈り 親愛なる主よ。あたりを見回してあなたから目をそらしてしまう私たちをお赦してください。私たちの恐れや不安は、私たちが自分の視線を、それが属するところに向けなおさせる注意喚起として役に立ちます。あなたが決して私たちから目を離さずにいるくださることに感謝します。
イエス様の御名によって。アーメン。

ピート・ナッシュ
オハイオ州 ウォレン

2月21日(水)

あなたは何にとらわれているのですか？

聖書朗読 ヤコブ 1:2~11

また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。
ヤコブ 1:22

*愚かな人は砂の上に家を建てる
愚かな人は砂の上に家を建てる
愚かな人は砂の上に家を建てる
そして雨が来て家は崩れてしまった！*

これは、あらゆる場所の休日の教会学校や子どもたちのクラスで歌われている古い讃美歌のひとつです。「雨が降って洪水がやってきた」という歌詞は私たちの耳に力強く響きます。

この歌詞の内容は現代において、これまでにないほどに真実です。人生にはやってくる様々な嵐や、恐ろしい洪水があり、私たちにはいつでも自分の土台を選択する機会があります。私たちが下す一つひとつの選択が私たちを次に進ませる力となります。そして私たちの安っぽい建築にひびができたときは、私たちはそれを壊すことができ、神様はそれを立て直すことができます。私たちの中にはより確固とした土台の上に立て直すために、移動しなければならない人もいました。神様の恵みは、神様だけを土台として家をたてるための方法や新しい材料を備えてくださるのです。

聖歌 295

祈り 親愛なる天のお父様。あなたのみ言葉に感謝します。私たちがみ言葉によく聞き、あなたの教えに従えるように助けてください。あなたのみ教えに感謝します。私たちがよく聞き、応答する弟子でいることができずように。
イエス様の御名によって。アーメン。

スコット・ワードリー
テネシー州 キングストン

2月22日 (木)

多 彩 な 恵 み

聖書朗読 I ペテロ 4 : 7 ~ 11

光があれ。

創世記 1 : 3

記録されている神様の最初の一言が、今回の聖書箇所です。私はその言葉の物理学的な意味が分かるとうぬぼれるつもりは少しもありませんが、その言葉に驚嘆します。闇に向かって神様は素晴らしい色の爆発、つまり神様の多様な栄光を映し出すためのあらゆる色の組み合わせを告げたのです。神様が彩られた世界にはクレヨラ (訳者注：自分で好きな色のマーカーを作れるおもちゃ) が表現できるよりもはるかに多様性があります。色調を数え上げようとした人々は、どういうわけか18に0が33桁つくところまで数え上げた結果、無限だと考えるのが一番よいという結論に達しただけでした。

これは、神様が世界を色を用いて作られたということをよく表しています。赤い土の上の緑の春、青いボンネット、日の出や日の入りの彩られた空は神様の無限の栄光についてだけでなく、神様が私たちにに対してどう思っておられるかをも語っています。神様は私たちに、神様が創られた世界を楽しみ、喜ぶことを望んでおられるのです。神様は私たちの罪に傷つけられた状態をあきらめず、最初に意図したとおり、私たちに輝くイエス様にある恵みを与えてくださったのです。

ペテロは私たちが奉仕を通じて輝けるということについて述べています。『神のさまざまな恵み』(10節)。この「さまざまな」という言葉は通常、「さまざまな色合いを持つ」という意味として定義されます。つまり言い換えればペテロはこのように言っているのです。「神様は、世界の中で一人ひとりの信者に与えられた固有の色を持つ恵みという賜物を通じて見られ、知られるあらゆる色の恵みをつくられた」と。神様は私たちを呼び、私たちが奉仕をするようにと賜物をくださいました。まるで『光があれ』と言っているかのように。実際、私はそれをとても意義深いものだと考えています。

讃美歌 第二編 2234

祈り 主よ。あなたが下さった賜物をどこで使うべきか教えてください。
イエス様の御名により。アーメン。

デイビッド・パウンズ
テキサス州 アマリロ

2月23日 (金)

聖 なる 咆 哮

聖書朗読 I ペテロ 5 : 8 ~ 11

キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

I ペテロ 5 : 14

私たちが子どもに対して動物が出す音について尋ねる時、子どもたちに教えている場合もあれば、ただ自分たちで楽しんでいる場合もあります。いずれにせよ間違いないのは、彼らが小さな声で精いっぱい豚や馬や鳥や犬の鳴きまねをするのは聞いていて楽しいものです。もちろん、代表的なのは小さな顔を激しい表情にして出す大声の「ガオオオオ！」です。ライオンの咆哮にはなにか比類ないものがあります。ただの音というだけでなく、雷のように感じるものです。そしてそれを聞くと私たちは自分が弱い存在であると思い知らされます。ライオンの咆哮は恐ろしいものです。

今回の聖書朗読箇所において、ペテロは私たちの敵である悪魔について、強い警告を発して私たちの注意を引き付けています。私たちの社会がその存在を忘れ、アニメでみるような、ひずめや角をもった存在程度のものであるかのように考えても、実のところ悪魔は現実の存在であり、危険であり、『食い尽くすべきものを捜し求め』(8節)ているのです。悪魔は腹を空かせてうろつく、『ほえたける獅子のよう』(8節)な獐猛で強力な捕食者なのです。

しかしペテロは私たちに、永遠の力を持つユダヤのライオンにこそ聞くことを求めています(10節)。預言者アモスは神様の声をこのように表現しています。『獅子がほえる。だれが恐れなだらう。』(アモス書3 : 8)。私はこの言葉が大好きです。天には悪魔をも恐れさせる聖なる咆哮があるのです。これが、私たちが敵に立ち向かい『堅く信仰に立』(9節)つことができる、あるいはそうすべきであることの究極的な理由なのです。なぜなら敵の咆哮がどれほど無慈悲であっても、「永遠の力」を持つ神様が最後に残るからです。

讃美歌 375

祈り お父様。私たちの恐れを自分自身の恐れではなくあなたの力に向けさせてください。

イエス様の御名により。アーメン。

デイビッド・パウンズ
テキサス州 アマリロ

2月24日(土)

何を貼られても

聖書朗読 Iヨハネ 1:5~10

すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われ
ること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

ピリピ 4:8

2歳になる私の娘は最近礼拝の間落ち着いてくれなくなってきたので、私は娘を静かにさせるためにシールのシートを出しました。娘は自分のノートにシールを貼り始め、次には自分の手の上に貼り、そして最後にはついにアリスさんのスウェットの背中を飾りつけ始めました。アリスさんは礼拝で私たちの前に座っている86歳のすてきなおばあちゃんです。アリスさんは私の娘に背中をぼんぼんと叩かれることに慣れていたので、私はアリスさんが自分のスウェットが飾りつけされていることに気付いていないことを知っていました。礼拝が終わった後、私はシールをはがし始めましたが、アリスさんは私にシールをスウェットにつけたままにするように求めました。アリスさんはそのシールを愛情のしるしとして受け取り、とても誇りに思っていたのです。その日の夜の礼拝で、アリスさんは私と娘に、娘のかわいらしさを思い出せるように、それらのシールを自分の聖書クラスのテキストに張り付けたのを見せてくれました。

私はあらゆることの中に良い部分を探す人たちに感謝しています。すてきなアリスさんは、厄介な状況を批判ではなくむしろ思い出の1ページに変えてくれたのです。あなたなら、何か貼り付けられたときどうしますか？

讚美歌 第二編 46

祈り 親愛なる天のお父様。私が今日出会うどんな人や出来事にも神様のやさしさを
見ることができるよう助けてください。

イエス様の御名により。アーメン。

ジャネー・ローレンス

テネシー州 ブラッシュクリーク

2月25日(日)

幼子イエス

聖書朗読 黙示録 1:9~18

「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。」

黙示録 1:17~18

羊飼いたちは夕方の早い時間、たき火の周りを囲んで座っていました。彼らの羊は夜の間、石垣の内側で安全に囲われていました。太陽の最後の光が西に消えていきました。空の光を見ているうちに、年上の羊飼いの一人が数年前に天の光と天使が夜空に広がった時のことを思い出しました。彼は天使が「恐れてはならない」と言っていたことを覚えていました。彼は自分と仲間たちが受け取った「ダビデの町ベツレヘムに行き、布にくるまって飼葉おけに寝ている幼子を見つけなさい」という導きを思い起こしました。火を見つめながら、彼は強く思いました。「ベツレヘムで生まれた幼子に一体どんなことが起こったのだろう。あの子は他のすべてのベツレヘムの子どもたちと一緒に殺されてしまったのではないだろうか？」と。

幼子イエスに何が起こったのでしょうか？

その答えの一つを、今回の聖書箇所使徒ヨハネが語っています。『神のことばとイエスのあかしとのゆえに』いたパトモス島での主の日に御霊を感じたときに、ヨハネは栄光とともにやってくる主のことを記述しました。

ヨハネを通じて、私たちは主が自らの教会のことを気にかけていることがわかります。そして私たちは同じ保証の言葉を聞きます。「恐れてはならない」と。

讚美歌 158

祈り 天にいますお父様。あなたが下さった贈り物であるひとり子、平和の王子、私たちのあらゆる恐れを取り除いてくださる方のゆえに、あなたをほめたたえます。死とハデスとのかぎを持っている方に、私たちが全幅の信頼を寄せることができるよう助けてください。

その方の御名により。アーメン。

クリス・フリゼール

テキサス州 グランベリー